

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ちとせ児童発達支援センターはる（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和8年4月30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数)	29
○従業者評価実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和8年4月30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	15
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年5月11日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にを行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【支援】子どもとその家族の願いを中心に、個々の子どもに応じた指導内容を計画し目標を立て、集団や個別での療育指導・支援を継続しています。専門職によるチームでの支援によって、子どもが主体的に生活することを後押ししています。	事業所での研修会開催や研修参加費の補助を行い、積極的に、職員の研鑽を勧めています。子どもや保護者支援に関して、日々の打ち合わせや支援後の反省以外でも、適時職員間で話し合うようにしています。	日々の支援を充実させるために、職員研修等で支援の質を高めることや職員間の連携を継続していきます。日々のこどもの姿に学びながら、支援の実施から振り返り、次の支援の計画と、適切な支援を提供できるよう図っていきます。
2	【環境整備】屋内や玄関の段差をなくし、バリアフリー化しています。『レッドコード』と『スパイダー』という運動機器の設置や就学前の子ども向けの遊具や教材をそろえています。	子どもが安全かつ主体的に活動できるよう施設設備を整えています。年度末に子どもの年齢や課題に応じて、支援方法を検討し、必要な子どもには新たな支援形態を提供しました。	子どもが持つ力を十分に発揮し活動しながら、生き生きとした生活を過ごせるよう、現状の支援を検証し見直ししながら、環境の整備や教材、活動の工夫をしています。
3	【移行支援】小学校等との就学移行において、保護者の希望に応じて引継ぎを実施し、新たな環境下で安心して生活ができるように努めています。□	保護者の就学への不安や悩みに寄り添い、必要なアドバイスや情報提供を行います。就学に際しては、学校に対し引継ぎを対面もしくは電話等で実施しています。からだの支援が必要な子どもについては、学校で必要な福祉用具の相談や用具の貸し出しを実施しています。	引き続き、就学移行のために必要な支援を行います。また、就学先の選択など職員間でも情報を共有し、適切な情報を適時保護者に伝えられるよう研鑽を積んでいきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流や研修機会など	保護者交流の場として、懇談会を開催しました、今年度は少ない開催回数となりました。子どもや保護者向けの行事と同様に担当者を決め、年間で開催計画を立てる必要があると考えています。	年度当初に他の行事とともに年間計画としていきます。全体行事としての交流以外にも、他の保護者とのつながりを求めている場合、先輩的な存在となる保護者となつなぐなど、適時取り組む姿勢を継続していきます。